◎東伊豆宇佐美港発➡熱海〜富戸沖

午前&午後船でたっぷり楽しむ東伊豆のアカムツ・オニカサゴ

フィッシングライター／訓覇啓雄 Hiroo Kunbe

2月23日、東伊豆宇佐美港の直正丸へ。当日は午前船でアカムツ、午後はオニカサゴという人気根魚のダブルヘッダー。

毎度このパターンで出船しているわけではない。伊豆方面では多くの船が予約制なので、最初に予約を入れた人の希望で釣り物が決まる。

各種根魚狙いを得意とする直正丸では、この2魚種の出船確率が高いものの、アマダイや時期によってはコマセ釣りもレパートリーに入るので、釣行に際しては船宿のホームページなどで予定を確認する必要がある。

集合は5時半。準備が整った5時50分に2人のお客さんとともに、島田正則船長の操船で出船となる。

このところ吹き荒れていた西風も収まり、ベタナギの海を30分ほど北上して、熱海沖に到着する。

海岸線からの距離はわずか2キロほどだが、急深な地形のため水深は270〜280メートルもある。6時半、「オモリが底に着いたら3〜4メートル上げて」のアナウンスで釣り開始となる。

仕掛けは胴つき3本バリ。捨て糸はなく、下バリの親子サルカンにダブルスナップサルカンで200号のオモリを装着するスタイル。潮が緩いときは全長3メートルの片テン仕掛けを使うこともある。

エサはサバの切り身が支給される。定番のホタルイカは持参するか、予約時に注文しておくと別料金で用意してくれる。

1投目は空振り。どうも潮が動いていないようだ。潮が動かないのはどの釣りでも悪条件だが、根魚狙いでは致命的といえる。

それでも1流し20分くらいのテンポで投入を繰り返していると、約1時間後に右ミヨシでアタリがきて、30センチ級のクロムツが上がる。

この魚は群れているので、場所に当たるとバタバタと続く傾向がある。5分後、私も一荷で釣ることができた。

8時40分、右トモで久しぶりのアタリ。浮上したのは本命のアカムツ。30センチ弱の小型ではあったが、ともかくこれが船中第1号。

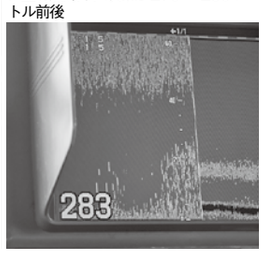
さあこれからと期待するが、その後はクロムツやシロムツがポツポツと姿を見せるのみで、残念ながら11時に沖揚がりとなる。

▼オニカサゴは富戸〜川奈沖の水深160メートル前後を狙う

▲東伊豆のオニカサゴは1キロ級が当たり前

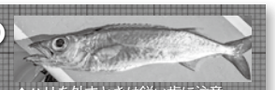
▼船で支給されるサバエサでアカムツが上がった

▲▼アカムツのポイントは温泉街を間近に望む熱海沖、水深は270〜280メートル前後



知っ得! Tips and Tricks

クロシビカマスのさばき方


▲ハリを外すときは鋭い歯に注意

午前の部で釣れたクロシビカマス。スミヤキ、サビ、ナワキリなどとも呼ばれるクロタチカマス科の魚だ。鋭い歯を持ち、ハリスはもちろん時には道糸まで切るため、嫌われることが多いが、アカムツを彷彿させるほど脂が乗って味はいい。ただ、普通の魚と違って皮裏にびっしりと骨が張りついているので、通常におろすと骨が当たる。ハモのように骨切りして塩焼きにするか、三枚におろしてからスプーンで身をかき出し「たたき」や「なめろう」などにするといい。

午後船は好転

午後の部は2名のお客さんを加え、総勢5人で12時に出船となる。

今度は30分ほど南下して富戸沖に到着。水深は約160メートル。

仕掛けは片テン2〜3本バリでオモリは150号。エサはサバの切り身。

仕掛け着底後、タナを取り直すたびに5メートルほど道糸が出ていく。

これは、海底が急激な斜面であると同時に、朝と違って潮が速すぎるくらい効いているせいだ。

1投目は空振り。小さく移動して投入を続けていると、まず右トモでアタリがあり、まずまずサイズのアヤメカサゴが上がる。

続けて、右胴の間で35センチ級のカンコ。さらに5分後、左ミヨシで豪快に抜き上げたのは大型のオニカサゴ。

計ってみると1.7キロ。昨今、近場でこのサイズはなかなか珍しい。

いい条件が整ったのだろう、ここで私の竿先もコクンコクンとお辞儀を始めた。竿を起こして合わせを入れ、巻き上げを始めると、けっこうな重量感を伝えている。

宙層まで上げてもグイグイと引き込むところを見ると、水圧の変化に強いオニカサゴの可能性が高い。

海面下にオモリがボワッと見え、テンビンを手に取ると、オレンジの塊が浮いた。レギュラーサイズながらも、やはり本命のオニカサゴだ。

ところが、ハリスをつかんで抜き上げに入った途端、ポロッとハリが外れて、オニカサゴは潜っていってしまった。

「ハリが小さいんじゃないか、これ使ってみな」と船長お手製の仕掛けを渡される。

一般的な2本バリ仕様だが、先バリは蛍光ピンク、枝バリは金。チモトには大きめの夜光玉が装着されている。

なんでも金バリがマイブームのようで、「オニカサゴには効くような気がする」とのこと。

好調の流れはまだ続いていたらしく、右トモでは30センチ級のカンコ（ウッカリカサゴ）と1キロ級のオニカサゴを連発で取り込んだ。

しかし、その後はアタリが遠くなり、空振りが目立つようになってきた。

良型ラッシュ!

14時45分、船長は富戸沖に見切りをつけ、しばらく北上。川奈沖まで移動する。

再開して30分後、またもいい流れがきてまず右胴の間、続いて右トモ、そして右ミヨシと連続でオニカサゴが浮上。

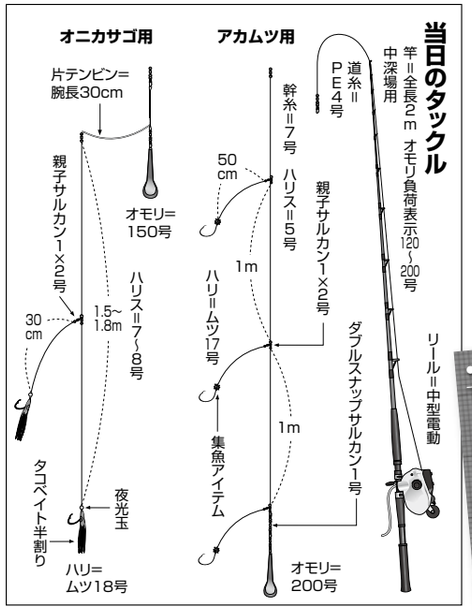
さらに20分後、右ミヨシ、また20分後に右トモで本命が上がる。サイズは0.7〜1キロ級が主体と良型ぞろい。

結局、16時半に沖揚がりとなり、釣果は0.5〜1.7キロのオニカサゴが船中8尾。ほかカンコ、アヤメカサゴ、ムシガレイなどが交じった。

トップは右トモの方。置き竿横着釣法の私などとは違い、ほぼ手持ちで丹念に誘い続けた努力が実を結んだ結果となった。

アカムツ、オニカサゴとも潮次第ではあるものの、天候と条件に恵まれれば、きっと満足できる釣果を手にすることができるだろう。

当日のタックル



•Tackle Guide

水中ライトのほか、金や蛍光カラーのハリ、夜光玉、半割りのタコベイトなど、オニカサゴ釣りではアピールアイテムがよく使われる。ただ、条件次第では外道を寄せる悪影響もあるので、スムーズに脱着できるようにしておくといい。

▼午後船のオニカサゴ第1号は1.7キロ

◎船宿information

東伊豆宇佐美港
直正丸
☎080・1569・3405
（詳細は巻末の情報欄参照）

島田 正則船長

▶料金＝アカムツ乗合、オニカサゴ乗合とも一人1万1000円（サバの切り身、氷付き）
▶備考＝予約乗合。午前船5時半、午後船11時半集合。ベニアコウ、アラなどへも出船